

2年 道徳

当日 改訂版

主題名	友達のために
中心内容項目	B-4 主として人との関わりに関すること（友情、信頼） ともだちやもんな、ぼくら
	令和元年 7月 1日 2校時
	児童 2年 1組 33名
	授業者 飯田 忍

1 主題設定について

(1) ねらいとする道徳的価値（教師の価値観）

第1学年及び第2学年の内容の「B-4 友情、信頼」は、「友達と仲よくし、助け合うこと」とある。

児童にとって友達は、家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、遊び仲間などとして影響し合いながら生活している。

しかし、この時期の児童は、自分本位な考えをしまい、友達の立場を理解したり、自分とは異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。

よりよい友達関係を築くためには、互いに認め合い、助け合い、理解し合いながら信頼感や友情を育てていくことが大切である。

(2) 児童の実態（児童観）

入学してから今日まで、どの児童も友達と休み時間に遊んだり当番活動を行ったりしてきている。「休みの日は友達と会えないから嫌い」と話す児童もいたり「友達がいるから学校に来るのが楽しい」と感じる児童もいたりする。これらのことから、この時期の児童にとって、豊かな生活を送る上で、友達はとても大切な存在であり影響力も大きいことがわかる。

学校生活では、忘れ物をしている友達に物を貸してあげたり、泣いている友達を慰めたりするなど、相手の気持ちを察して行動できる児童も増えてきている。一方では、休み時間の度に「〇〇さんが嫌なことをしてきた」などの訴えが後を絶たない。話を聞くと、自分の思いだけを主張し、相手の話を聞こうとしない、理解しようとしなくて誤解が生じていることが多い。

担任としては、もう少しお互いに気持ちを伝え合ったり寄り添ったりすることができるようになると、トラブルも減り、もっと友達と仲よく生活ができるようになったり、友達との仲を深めることができるのではないかと考えている。

【事前アンケート】

内容	結果
友達だと思える人はいますか。	・いる 33人 ・いない 0人
友達とは、どんな人のことですか。	・遊んでくれる 16人 ・優しくしてくれる 11人 ・仲良く 9人 ・助けてくれる 3人 ・けんかする 3人 ・親切 2人 ・クラスの人 ・支え合う ・協力する ・一緒に生活する人 ・教えてくれる人
もっと友達と仲良くなりたいですか。	・はい 30人 ・いいえ 3人
そのために、大切なことは何だと思いますか。	・優しくする 10人 ・たくさん遊ぶ 5人 ・自分から誘う(声掛け) 6人 ・助け合う 3人 ・支える 3人 ・相手のことを考える ・親切にする ・けんかをしない ・すぐに謝る ・もっと知る ・思いやる ・協力する ・無視しない
友達がいてよかったと思ったのはどんな時ですか。	・困っている時に助けてくれた。 ・間違えた時に支えてくれた。 ・一人である時に「遊ぼう」と言ってくれた。 ・一人ぼっちだと楽しくない、寂しい。 ・遠足で「一緒に食べよう」と誘ってくれた。 ・保健室に連れて行ってくれた。 ・一緒に帰ってくれた。

(3) 教材への思い（教材観）

本教材は、「ぼく」とマナブとヒデトシの仲良しの男子3人の話である。近所のかみなりじいさんの家の木に登りかぶと虫を取ろうとした際、ヒデトシだけがじいさんにつかまってしまった。ヒデトシを助けに行くかどうか、「ぼく」とマナブは悩んだ末に、ヒデトシを助けに行く決心をする。謝りに行くと、かみなりじいさんは怒らずにむしろ褒めてくれ、3人の友情のきずなが深まったという内容である。

「ぼく」とマナブが逃げたときと謝りに行こうと決めたときのヒデトシを思う気持ちの大きさの違いや、悩んだ末に謝りに行こうと決めた理由を考える活動を通して、「ぼく」がヒデトシのことを思う気持ちが強くなってきていることに気付かせ、その思いに沿って行動したことが、その後3人の友達関係をよりよくしていくことにつながることに目を向けさせたい。この授業を通して、友達を思いやること、支え合うこと、助け合うことの大切さに気づくことができるような授業を目指していきたい。

2 総合単元ユニットとの関係

休み時間や学習活動、当番活動など、学校生活のあらゆる場面において、友達と仲よく過ごすためには、お互いに支え合ったり、助け合ったりすることも大切であることを理解し、生活場面でも生かしていこうとする意欲を高める。

3 研究との関わり

問題意識をもつようにする導入の工夫
子供が自分の問題として捉え、その追及や解決について必然性をもって行うようにする。

学び合う雰囲気づくりの工夫
教師と子供の温かい人間関係、子ども同士の認め合いや励まし合いのできる関係によって、お互いが心を開き、自由に話し合うことができるようにする。

自我関与させる展開の工夫
子供が読み物教材の登場人物に託して自分の考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る。

生活とつなげる振り返りの工夫
学習内容や学習活動を俯瞰して見つめる振り返りを行うことで、自分の生活や行動、今後の発展へとつなぐことに着眼する機会とする。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・身近にいる友達と仲よく過ごし、助け合っていこうとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

	活動内容・予想される児童の反応（○発問 ◎中心発問）	教師の支援・評価・研修との関わり ●支援 □評価指標 ◎研修との関わり
価値への方向付け	1 ねらいとする道徳的価値に対する興味・関心を高め、「課題」を設定する ○友達と仲よくしていますか。 ・している ・していない *学級目標の「ともだちとなかよく」について、学級平均では、89点の達成率であることを知らせる。 ○友達ともっと仲よくなるには、どんなことが大切なのだろう。今日はそのことを考えましょう。 《本時の課題》 友だちと もっとなかよくなるために 大せつなことは 何だろう。	●学び合う雰囲気づくりを行う。 ◎アンケートの結果を聞いて問題意識をもち本時の課題に関心や意欲をもたせる。
	2 教材「ともだちやもんな、ぼくら」を通して、「課題」を追求する ○どうして「ぼく」は、ヒデトシが転んでも走り続けたのでしょうか。 ・怒られるのが嫌 ・捕まりたくない ・かみなりじいさんがこわい ・ヒデトシも後から付いてくると思ったから ○「ぼく」は、悩んでいた時に、どんなことを考えていたのでしょうか。 ・助けに行こうかな、やめておこうかな。 ・ヒデトシのためにも行った方がいいかな。 ・怒られるのが怖い。 ・今ごろ、ヒデトシはどうなっているだろう。	●ヒデトシのことまで考えられない「ぼく」の心情をとらえられるようにする。 ●ヒデトシを心配する気持ちが芽生えてきていることを押さえる。
	◎「ヒデトシを助けに行こう」と決めたのは、なぜでしょう。 ・ヒデトシ一人ではかわいそう。 ・ぼくだけ逃げるのはずい。 ・ヒデトシは、大切な友達だ。 ・ぼくもヒデトシと一緒に怒られに行こう。 ・ヒデトシはぼくのことを待っているかもしれない。	◎葛藤し悩んでいたにもかかわらず、ヒデトシを助けに行こうと言えた理由についてノートに書き、話し合う。
	○最初の3人と帰り道の3人とでは、どちらが仲よくなっていると思いますか。 ○それはどうしてでしょう。 《共通解》 ・友達のことを思いやる。 ・助け合う。 ・友だちのために行動する。	
価値の追求・把握	3 資料から離れ、自分自身の問題として深めたり広げたりする ○今までに、友達と助け合えたことはありますか。 ※写真を提示し、学級でも助け合えていることがあることを共有する。	◎子供たちが、学習してきたことと日常生活とのつながりを意識できるように、生活体験を語る。
	4 価値について納得解をまとめる ※本時の学習を振り返り、気づいたこと、再確認したことなど、自分の考えをノートにまとめる。 ・～ということがわかりました。 ・はじめは～と思っていたけど、・・・だと気が付きました。 ・これから～。 ・友達の考えを聞いて～。	◎生活場面の写真を見せる。 □道徳的实践意欲 これからも、身近にいる友達と仲よく過ごし、助け合っていこうとする意欲を高めることができたか。 【ワークシート・発表】
価値の自覚		
意欲化		

(3) 本時の評価

- ・身近にいる友達と仲よく過ごし、助け合っていこうとする心情を育てることができたか。